



年 組 ()

カズエとナオコは、いつも仲良しだった。

家も近所で、クラスだって2年間連続で同じなのだ。だから、いつも一緒に遊んでいた。

その日の授業は理科室で実験だった。カズエは、ナオコが準備するのを待っていた。ほかの子は、みんなすでに理科室へと向かっていた。

「ごめんね、お待たせ！」

「うん。早く行かないと、おくれちゃうよ。」

ナオコが、こちらに向かってかけ出したところで、ボンと教卓横のたなにひじがあたった。すると、たなの上に置かれていた花瓶がたおれて、ゆかに落ちた。

花瓶は、ゴツリと音を立てた。割れてこそいないけれども、大きなヒビが入ってしまった。ナオコは真っ青になった。

「ああっ、どうしよう。先生、おこるかな。弁償かな——。」

「正直に言ったら、許してもらえるんじゃない？」

「イヤ。おこられたくないもの。それに、病気で働けないお母さんにも迷惑をかけたくないの。カズエ、お願い。だまっ
ていて。」

次の日の学級会で、先生はみんなに向かって言った。
「花瓶にヒビが入っていて、使えなくなってしまいました。
誰か、知っている人はいませんか。」

カズエは、ナオコの方
をこっそりと見た。ナオ
コは泣きそうな顔でうつ
むいていた。



カズエは、どうするべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

| |
|-------|
| |
| |
| |
| |
| |

話し合っ
て考えたことを書きましょう。

| |
|-------|
| |
| |
| |
| |
| |